

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

■2025年新しい体制でスタート	1
■ラオス/新駐在員報告会	2
■フィールドワーク「森に学ぶ」を行うワケ	2
■ネパールを揺るがす緊急事態が発生	3
■安全で安心な学校環境を！	3
■インフォメーション/活動日誌	4

2025年新しい体制でスタート

今年の6月に、2019年から6年間理事長の任にあった磯野昌子が退任し、新たに大嶋朝香が理事長（事務局長兼任）に就任しました。勝田文隆、武安ますみの二人が副理事長という体制で地球の木は動き出しました。地球の木の誕生から34年が過ぎ、時代の変化も大きく、地球の木のこれからをいろいろな方面から考えていかなければならぬ難しい時です。皆でいっしょに考え、活動していきませんか。

「地球の木の会員で良かった」と思える活動を — 大嶋朝香

地球の木設立（1991年）の時、バナナやエビの学習会に参加し、生産地であるアジアの国々の実態を知り、消費者として、日本人として、疑問を持ち、地球の木の会員になりました。当時、南の国々では北の先進国による資源や労働力等の搾取があり、人々が貧しい生活を強いられていることや、ODAのこともずいぶん問題になりました。このような国際社会でよいのか。アジアでの戦争加害もふくめて、私の問題意識は明確でした。



地球の木はアジアで社会的に困難な境遇にある人々に対する生活基盤確立のための自立支援を行ってきましたが、格差や分断、気候変動などが顕在化する中で、私たちはこれからアシア、世界との関係について、改めて考えてみることが必要になっていると思います。相互に元気になる支援とは何なのか。市民が取り組む国際協力とは何か。多様なコミュニティや自然との関係から真の豊かさが見えてくるはずです。

今後、私たちが暮らす地域と海外の地域とがつながり、人権やエコロジーなどの活動を展開している人達とのかかわりを作ること、お互いを行き交いながら関係をひろげていくことで多様性の根や幹を大きくしていきたい。私がめざしたいことは、地球のどこに生まれ、どこで暮らしていくようと紛争の犠牲になるなど、理不尽な渦中に巻き込まれることがないような社会づくりです。そのための仲間づくりや具体的な活動を改めて構築していくなければなりません。皆様の会費や寄付でのご支援に感謝しつつ、さらに活動への参加を呼びかけます。ご意見やアドバイスなど日頃考えていることなど共有させてください。参加してよかったですと思える活動を一緒につくりましょう。

第7次3カ年計画の1年目である2025年度、あっという間に上半期が過ぎてしましましたが、風通しの良い組織づくり、外に向けての活動展開、多様性を認めあえる市民がつくる新しい社会に向かってスタートしております。

100号を迎えて

地球の木の会報は今回100号を迎えました。1999年12月に1号を発行してから、国内またアジアの国々の人たちとの沢山の出会いや様々な活動を記録してきました。今は情報が溢れ、その伝達の速度も手段も大きく変化していますが、私たちはこれからも地球の木のミッションを忘れずに会報の発行を続けてまいります。なお、ホームページには創刊号からのバックナンバーが掲載されています。ぜひご覧ください。



日本国際ボランティアセンター(JVC) ラオス“新”駐在員報告会

—10月4日 神奈川県立かながわ労働プラザ—

地球の木が支援する「JVCラオスのセコン県での村人自立支援活動」は、これまでの成果を踏まえ活動を広げています。県の中心部から車で3時間以上というカルム郡とダックチュン郡の18村を対象に、2025年4月から新規プロジェクトが始まりました。現地駐在員をおよそ8年間勤めた山室良平さんの後を引き継いだのは、海外支援の現場もラオスも初めてという東武瑠さん。約1年の現地駐在を経て一時帰国中の東さんにお話を聞きました。



JVCラオス事務所
新駐在員の東尊留さん

■「初めて、東です」

小学校の教員をしていましたが、小さい頃から抱いていた環境保全などへの関心から、JVCで働くことになりました。全く無の状態で行ったラオスですが、どこでも人々がフレンドリーに話しかけてくれました。優しくて穏やかで、僕は好きですね。実務的なことだと、中央の省から県、郡のレベルまで、たくさんの人たちと対応するのですが、どこにアプローチすれば効果的な交渉ができるのか、うまく関係が築けるのか、いまひとつ内部の権力構造が見えてこないなあという印象です。

■ラオスの教育事情は？

教育の水準は意外に高いようです。少数民族が住むエリアでも共通言語のラオス語が通じますし、各村に学校があり、85～90%の人が初等教育を受けています。村長さんに書類を見せるのもOK。とはいえば法律研修では、ロールプレイをしたりビデオを見たりして体感的に理解してもらうようにしています。感触は悪くないです。

■広がるキャッサバ畑

現金収入を求めてのキャッサバ栽培は、平野部の農村でブームが続いている、新しい支援地の山間部の農村にも広がっています。キャッサバは連作すると土地の質が落ちるし、植段も不安定で村人の生活を直撃するという心配があります。山の斜面いっぱいに広がるキャッサバ畑とその下の集落を実際に見て、土砂災害の危険も強く感じました。新規プロジェクトでは、換金作物への依存の緩和を進めると共に、ハザードマップを作るとか、部分的な植林をするとか、防災のサポートもしていきたいです。

■村人どうしの交流が大事

村と村が交流するのは、近隣でなければほとんどありません。たとえば前のプロジェクト地の平野部でコミュニティ林を作った村の人たちが、山間部に行って情報交換をするのはどうでしょう。僕たちや政府がするよりよっぽどいいですね。村人同士だから分かる問題があるし共有できることもあります。コミュニティ林や魚保護地区の設置をする活動を新しい地域でも進めていくわけですが、村人たちが交流する機会を作る、その手伝いもしていきます。

(ラオスチーム 斎藤和子)

フィールドワーク「森に学ぶ」を行うワケ

ラオス支援をする中で得た知見を日本社会に伝えることは、私たち地球の木の重要な役割の一つです。ラオスの人々にとって森は暮らしの糧としても、精神的にも重要な意味を持っており、特にラオスの人々の「自然への畏敬の心」には学ぶものがあります。その森が経済開発によりどんどん失われている現状、それは日本とも関係していることも知ってもらいたいです。また私たちはただ「伝える」だけでなく、その一歩先、一人ひとりの意識や行動の変容につなげる事が大事だと考えます。

日本もラオス同様「森の国」です。しかし里地里山も林業の森も衰退の一途です。経済開発により森が奪われ続けるラオスと、逆に森があるのに、エネルギー源の変化や安価な

輸入木材への依存などから利用しなくなり、荒れ放題の日本。このままでいいのだろうかと思わずにはいられません。日本の森をどう利用すれば良いか、私たちはどう関われば良いか考えることは、他国の森を守ることにもつながるのです。

都会に残るわずかな里山も、今は人々の癒いや教育の場としての貴重な役割を持っています。横浜市内にある「市民の森」や「公園」を訪れ、その自然を感じ保全活動している方々の話を聞いてみる。身近な森を歩き、ラオスの人々や森についても知ってもらう。そんな体験が、少しでも自分と森の関わりを考え、足元から世界へと目を向ける第一歩になればいいなと思っています。(ラオスチーム 武安ますみ)



9月 ネパールを揺るがす緊急事態が発生

事件勃発後すぐにネパールと日本の懸け橋として活躍するジギヤン・クマール・タパさんが、現地情報共有のために9月17日(水)緊急ウェビナーを開催しました。以下はその内容の報告です。

■SNS遮断がきっかけ

ネパールのZ世代(1990年代後半~2000年代初めに生まれたデジタルネイティブの世代)の失業率は20%を超す。政府閣僚の子どもたちは外車を乗り回したり、留学したり、豪勢な生活をしているが、村の若者たちの生活は厳しく、出稼ぎに活路を見出している。そんなネパール人にとってSNSは必要不可欠な生活インフラだ。

ところが、政府が「偽アカウントや誤情報対策」の名目でSNSを遮断した。これがZ世代にくすぶっていた不満に火を付け、汚職にまみれた政治家たちにうんざりしていた国民もZ世代の抗議行動に呼応した。



■平和な抗議デモが…

Z世代の女性リーダーが、トラックの上から「道路の花や木は折らない」「暴力行為はしない」など「10か条の約束」を呼び掛けた。市民が続々と集まり、議会に向かって平和的に行進していくが、一部が暴徒化し、オリ首相の家に放火したり、閣僚に暴力をふるったりした。治安当局が発砲を伴う強硬な鎮圧に踏み切り、1日で19人の若者が犠牲になった。この対応をめぐり、政府の指導層の判断に批判が集中し、庶民の怒りは爆発した。暴動は2日間続き、首相は辞任。SNS復帰後も全国的に政府庁舎・政治家の家が放火された。9月8日から始まったこの抗議行動で、16日までに72名が死亡し、2113人が負傷した。

■オンライン投票で首相を選出

チャットアプリ上で行われたZ世代と大統領の話し合いとオンライン投票の結果、暫定首相にスシラ・カルキ氏が選出された。カルキ氏は、大物政治家の汚職事件で厳しい判決を出したことで知られる、女性で初の元最高裁判長。来年3月5日に選挙が実施されることになった。今後もネパールの動きを見守っていきたい。

(ネパールチーム 乳井京子)

安全で安心な学校環境を! —パビットラ・デウラ(SAGUN理事)

ネパール、インドラサロワールで行っているプログラムの現地パートナーNGO、SAGUNの理事であり、スクールナースをされているパビットラ・デウラさんからレポートが届きました。

スクールナース(学校保健士)になって20年、現在はカトマンズのブリティッシュスクールで働いています。同校ではこれまでに3回のスクールナース会議を開催しました。また、私はスクールナースの全国ネットワークを立ち上げました。SAGUNには2021年に初めてボランティアとして参加し、その参加型アクションのアプローチに深く感銘を受け、私もコミュニティに貢献したいという思いから活動を始めました。(2023年よりSAGUN理事)

今年7月、私は日本で開催された第22回「スクールナース国際会議」に参加しました。テーマは「多様な社会で暮らす子どもたちの未来のために」、メッセージは「地球規模で考え、地域で行動する」でした。この会議に参加して、私は特にメンタルヘルスリテラシーの向上、インクルーシブケアおよび文化に適応する学校保健システムの推進について学びました。ここでのグローバルな学びをネパールの多様な学校コミュニティに広めるため、政策提言や地域文化に即した教材開発などを行っていきたいです。

現在、IRM(インドラサロワール)の子どもたちは、勉強のストレス、自尊心の低さ、不安などの心理的な課題を抱えています。その解決のためには、メンタルヘルス教育、スタッフの訓練、家族の支えが必要です。SAGUNは3人のスクールナースを支援し、メンタルヘルスの意識向上やカウンセリングの提供など、重要な役割を果たしています。

これからも、地球の木と力を合わせて、すべての子どもの声が聞かれ、安全で安心な学校環境を創り続けられたらと思います。



2024年SAGUN事務所訪問時
SAGUNの理事3名と
(右端がパビットラ・デウラさん)

ネパールスタディツアー～世界を知り、自分を知る～

地球の木が支援しているネパールの山あいの村、インドラサロワールを訪ねます。村でのホームステイ、学校訪問と交流から、「教育」について、本当の「豊かさ」について探求する旅です。あなたの人生観が変わる旅になるかもしれません。

■日 程:2026年3月16日(月)～3月23日(月) 成田発着8日間(機中1泊)

■旅行代金:275,000円(学生265,000円) ※別途燃油サーチャージ、成田空港施設使用料、諸外国空港税、ビザ代などの費用が必要となります。

■申込締切:2026年2月3日(火)

詳しくは「地球の木」ホームページをご覧ください。



年末募金2025

あなたの手で
未来に希望の種をまこう!

地球の木では、現地での対話を大切にネパールやラオスの自立支援を継続しています。国や民族、文化の違いを超えて、より良い未来をつくる為に、皆様からのあたたかい支援をよろしくお願い申し上げます。詳細はホームページ、または、ちらしをご覧ください。

■募金の宛先

【ゆうちょ銀行】の場合

・口座番号 00260-5-14129

・口座名義 「特定非営利活動法人 地球の木」

詳細はホームページ、または、チラシをご覧ください。
年末募金は、2026年1月31日まで受け付けてあります。



「ともだち展」は、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、中国の延吉、日本に住む子どもたちが絵を通して心をつなげた絵の展覧会です。「今はまだ会えないけど、いつかは出会う未来のともだち」の絵に会いに来てください。

■絵画展

2026年2月16日(月)～2月26日(木) ※日曜日休館

10:00～17:00(16日は13:00～、26日は14:00まで)

会場:横浜中央YMCA8Fラウンジ

■こどもワークショップ

2月21日(土) 10:00～12:00

■講演会

2月21日(土) 13:30～15:00

講師:山本俊正さん(南北コリアと日本のともだち
展代表・日本YMCA同盟会長)



寄付領収書について

2025年に受けたご寄付の領収書は、2026年1月下旬を目途に郵送でお送りいたします。

また、地球の木ではサポート会員の会費も控除対象となります。サポート会員の領収書が必要な方は、事務局までご連絡ください。

認定NPO法人格を更新しました

「認定NPO法人」は「多くの人たちに支えられていること」が重要な要件になります。市民による国際協力団体として、多くの皆様のご支援をいただいてありますこと、改めて感謝申し上げます。認定NPO法人へのご寄付は最大50%が所得税等の税金から控除されます。ぜひこの制度をご活用ください。

活動日誌(6月～11月抜粋)

■6月

10日 会報第99号発行

14日 出前講座

(鎌倉女学院高等学校)

22日 第1回定例理事会

30日 デポー展示会(東寺尾)

■7月

5日 出前講座

(町田市立真光寺中学校)

20日 第1回運営連絡会

■8月

17日 第2回定例理事会

25日 ロシラハールを読む会

■9月

21日 第2回運営連絡会

28日 多文化フェア @ながやま

■10月

4日 ラオスプログラム

「JVCラオスプロジェクト報告会」

5日 出前講座共有会(ネパール)

11日 森に学ぶ @舞岡公園

※雨天のため中止

19日 第3回定例理事会

27日 中間監査

■11月

1日 出前講座共有会(ラオス)

16日 第3回運営連絡会

◆◆◆事務所移転のおしらせ◆◆◆

20年以上事務所があった横浜市中区不老町から、10月24日(金)下記の住所に引っ越しました。新事務所はJR桜木町駅新南口(市役所口)より徒歩5分、みなとみらい線馬車道駅(3番出口)より徒歩3分ほどの立地です。お近くにお越しの際は

お立ち寄りください。

【新住所】

〒231-0011

横浜市中区太田町6-82 第二須賀ビル3F-B

※電話番号、FAX番号は変更ありません。

